

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市燕沢児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 16,768 人 (前年度比 85.4 %) 令和元年度 19,624人 平成30年度 25,952人 平成29年度 23,055人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 39,627 千円 (35,446 千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館地域連絡会、児童裏部保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》

当児童館の一番の特色は、地域の皆様の、子供たちを温かく見守ってくださる姿勢に支えられているということです。学校、町内会、各種団体等、たくさんの皆様にご理解・ご協力をいただいで運営されています。今年度、新型コロナウイルス感染症の拡大でなかなか行事が実施できずにいる中で、地域の皆様には子供用マスク、消毒用アルコール、清掃用具、サテライト用交通安全グッズ等、たくさんのご支援をいただきました。

自由来館が始まってから乳幼児親子の利用が増え、職員と話すだけでなく保護者同士が仲良くなって友だち作りをし、児童館を気軽に利用する雰囲気が出ています。また、子育て支援クラブと共催で外部講師を招き、親子ヨガやフォーセラーツ等の行事を実施しました。児童館単独でも、回数や参加人数を制限しながらキラキラ（乳児）クラブやサンサン（幼児）クラブ、つばめっ子タイムを実施し、子育て中の親子の支援をしてきました。歌を歌ったり、ダンスをしたり工作をしたり、いろいろな活動をすることで、参加している乳幼児親子の交友の輪が広がり、お互いに子育て情報を交換したり遊ぶ約束をしたりする姿が見えて、児童館が地域の親子の交流ステーションの役割を果たしていました。

当児童館の一番の強みは、保護者の皆様と職員との距離が近いということです。お迎えに来る保護者の方とはその日の児童館での出来事を伝えたり、時には子育て相談を受けたりして、子育てについて一緒に考え協力しています。児童クラブの登録児童は、児童館を利用することを楽しみにしている児童が多く、一日の平均利用率は仙台市内でトップとなり、保護者の方も安心して燕沢児童館の児童クラブにお子さんを預けているという感想を、保護者アンケートからも知ることができました。これからも、子供たちの良い点や活動の様子など事実を正確に伝え、子育て支援に協力していく児童館として運営してまいります。

《施設設置者（仙台市）による評価》

令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。

放課後児童健全育成事業においては、職員全員で児童クラブの子ども達に対する細やかな支援は基より、学年ごとに支援員の担当を決めており、月に一度の学年集会でのまとめ役となったり、日頃の子ども達の様子を見守るなど、より丁寧な支援が行える工夫をしている。学年集会の中では、子ども達とともに月の目標を決め、それをポスターにして掲示しているが、その中で子ども達の積極的な意見交換の場を作り、ポスター製作への自発的な取り組みへのサポートなど、子どもの自主性を育てる支援を行っている。また、昨年度まではクラブ活動として楽しんでいたものの今年度は休止となってしまった「はたおり」や「畑活動」などの人気のあった事業を、内容を変えたり企画行事として取り入れたりしながら継続できるよう工夫した。

子育て家庭支援事業は、地域のニーズも高く、コロナ禍であっても日常的な利用者が絶えず活気がある。毎週水曜日に設けている行事「つばめっ子タイム」では読み聞かせやダンス、簡単工作などの遊びを提供して好評を得たことが、児童館の認知度を高め、地域の乳幼児親子の交流の場となっている。また、登録制の幼児クラブ「キラキラクラブ」「サンサンクラブ」も季節の行事や親子ヨガ、栄養士の相談会など多岐に渡るプログラムを提供し、子育て支援クラブとの共催行事でも「ポーセラーツ」や「ママストレッチ」などの気分をリフレッシュできるような企画で、子育て家庭の支援に取り組んでおり評価できる。

地域交流推進事業での事業は中止となるものが多かったが、日頃より地域との連携を深めていたことから、コロナ禍での子ども達の様子を気にかけてもらっている。地域へのアンケートを取り、児童館と地域との事業再開に向けた関りを模索しつつ協力体制の維持に努めている。

総合評価

S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課